

ドイツ文学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 semester	開講曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
ドイツ文学概論Ⅰ	ヨーロッパ的文脈から見たドイツの歴史と文化 1	2	森本 浩一	3	前期金曜日3講時	
ドイツ文学概論Ⅱ	ヨーロッパ的文脈から見たドイツの歴史と文化 2	2	森本 浩一	4	後期金曜日3講時	
ドイツ語学概論Ⅰ	中級ドイツ文法	2	嶋崎 啓	3	前期水曜日2講時	
ドイツ語学概論Ⅱ	中級ドイツ文法	2	嶋崎 啓	4	後期水曜日2講時	
ドイツ文学基礎講読Ⅰ	ドイツ語スキルアップ	2	NARROG HEIKO	3	前期火曜日1講時	
ドイツ文学基礎講読Ⅱ	ドイツ語スキルアップ	2	NARROG HEIKO	4	後期火曜日1講時	
ドイツ文学各論Ⅰ	ドイツ(語)文化圏の文化と歴史(11)	2	佐藤 雪野	5	前期火曜日2講時	
ドイツ文学各論Ⅱ	ドイツ(語)文化圏の文化と歴史(12)	2	佐藤 雪野	6	後期火曜日2講時	
ドイツ文学各論Ⅲ	ドイツ詩を読む	2	藤田 恭子	5	前期金曜日2講時	
ドイツ文学各論Ⅳ	ドイツの散文作品を読む	2	藤田 恭子	6	後期金曜日2講時	
ドイツ語学各論	ドイツ語圏映画の世界	2	NARROG HEIKO	5	前期水曜日3講時	
ドイツ語学各論	ドイツ語圏映画と日本	2	NARROG HEIKO	6	後期水曜日3講時	
ドイツ文学演習Ⅰ	中世ドイツ文学	2	嶋崎 啓	5	前期金曜日3講時	
ドイツ文学演習Ⅱ	中世ドイツ文学	2	嶋崎 啓	6	後期金曜日3講時	
ドイツ文学演習Ⅲ	多読によるドイツ語読書へのアプローチ	2	菊池 克己	5	前期火曜日4講時	
ドイツ文学演習Ⅳ	ハインリヒ・ハイネの詩	2	風岡 祐貴	集中(6)	集中講義	
ドイツ語学演習Ⅲ	ドイツ語学演習	2	NARROG HEIKO	5	前期木曜日3講時	
ドイツ語学演習Ⅳ	ドイツ語学演習	2	NARROG HEIKO	6	後期木曜日3講時	

科目名：ドイツ文学概論 I / German Literature (General Lecture) I

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：森本 浩一

コード：LB32501, 科目ナンバリング：LHM-LIT204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ヨーロッパの文脈から見たドイツの歴史と文化 1
2. Course Title (授業題目)：History and culture of the German-speaking area in the European context 1
3. 授業の目的と概要：「ドイツ語圏」の歴史と文化に関する基礎的知識の習得を目的として、歴史上の重要なトピックを取り上げて概説する。今期は古代から 16 世紀までを扱う。「ヨーロッパ」という文脈を常に意識し、そこにおけるドイツの特色は何かを考えてゆきたい。幅広い概観を通じて常識的視野を広げることを目的とする授業である。世界史についての関心を有していることが望ましい。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：With the aim to help students acquire a basic understanding of the history and the culture of the German-speaking area. The course of this semester deals with the main historical topics from the ancient time to the 16th century. It focuses the wider context of "Europe" and the specific features of German area.
5. 学修の到達目標：ドイツ語圏を中心としたヨーロッパの歴史と文化に関する常識が身につく、現代の世界がなぜこうなっているのかについて理解し考察する能力が向上する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will widen his/her perspective to understand the characteristics of the German-speaking area in Europe.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 導入 ユーラシア的視野におけるヨーロッパ
 - 2 古典古代とゲルマン人(1)
 - 3 古典古代とゲルマン人(2)
 - 4 キリスト教(1)
 - 5 キリスト教(2)
 - 6 フランク王国と「ヨーロッパ」の成立
 - 7 神聖ローマ帝国
 - 8 12～13 世紀のヨーロッパ
 - 9 中世の文化
 - 10 過渡期の帝国
 - 11 中世の終わり
 - 12 宗教改革の時代(1)
 - 13 宗教改革の時代(2)
 - 14 16 世紀のヨーロッパ
 - 15 まとめ
8. 成績評価方法：

おおむね、出席 (30%) と期末レポート (70%)
9. 教科書および参考書：

参考書として坂井栄八郎『ドイツ 10 講』、岩波新書、2003 年。その他は、授業中に指示する。
10. 授業時間外学習：特別に予習や復習を求めるものではないが、読書やメディアからの情報収集を通じて、日常的にこの「世界」の現状と来歴について関心を向け、自ら思索する習慣を身につけてほしい。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取る。なお、新型コロナウイルス感染症への対応状況によって、面談は遠隔となる場合がある。 xkc-m2rt@tohoku.ac.jp (森本浩一)

科目名：ドイツ文学概論Ⅱ／ German Literature (General Lecture)II

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：森本 浩一

コード：LB42501, 科目ナンバリング：LHM-LIT205J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ヨーロッパの文脈から見たドイツの歴史と文化 2
2. Course Title (授業題目)：History and culture of the German-speaking area in the European context 2
3. 授業の目的と概要：「ドイツ語圏」の歴史と文化に関する基礎的知識の習得を目的として、歴史上の重要なトピックを取り上げて概説する。今期は17世紀から現代までを扱う。「ヨーロッパ」という文脈を常に意識し、そこにおけるドイツの特色は何かを考えてゆきたい。幅広い概観を通じて常識的視野を広げることを目的とする授業である。世界史についての関心を有していることが望ましい。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：With the aim to help students acquire a basic understanding of the history and the culture of the German-speaking area. The course of this semester deals with the main historical topics from the 17th century to the present. It focuses the wider context of "Europe" and the specific features of German area.
5. 学修の到達目標：ドイツ語圏を中心としたヨーロッパ歴史と文化に関する常識が身につく、現代の世界がなぜこうなっているのかについて理解し考察する能力が向上する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will widen his/her perspective to understand the characteristics of the German-speaking area in Europe.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 導入 中世までのユーラシア世界
 - 2 キリスト教と宗教改革
 - 3 30年戦争とその後
 - 4 ドイツ語圏の文化と思想(1)
 - 5 プロイセンの成立と発展
 - 6 18世紀のドイツ語圏
 - 7 フランス革命とその余波 (19世紀)
 - 8 ドイツ帝国の半世紀
 - 9 ドイツ語圏の文化と思想(2)
 - 10 第一次世界大戦とヴァイマル共和国
 - 11 ナチズムの時代
 - 12 第二次世界大戦とホロコースト
 - 13 大戦期までの日本とドイツ
 - 14 戦後ドイツ
 - 15 まとめ
8. 成績評価方法：

おおむね、出席 (30%) と期末レポート (70%)
9. 教科書および参考書：

参考書として坂井栄八郎『ドイツ10講』、岩波新書、2003年。その他は、授業中に指示する。
10. 授業時間外学習：特別に予習や復習を求めるものではないが、読書やメディアからの情報収集を通じて、日常的にこの「世界」の現状と来歴について関心を向け、自ら思索する習慣を身につけてほしい。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取る。なお、新型コロナウイルス感染症への対応状況によって、面談は遠隔となる場合がある。 xkc-m2rt@tohoku.ac.jp (森本浩一)

科目名：ドイツ語学概論 I / German Linguistics (General Lecture) I

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓

コード：LB33201, 科目ナンバリング：LHM-LIT206J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中級ドイツ文法
2. Course Title (授業題目)：Intermediate German Grammar
3. 授業の目的と概要：初級のドイツ文法では習わない事項を取り上げ、ドイツ語の文法をより深く理解することを目指す。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Der Unterricht orientiert sich daran, verschiedene Themen, die in der grundlegenden Grammatik normalerweise nicht berücksichtigt werden, in Betracht zu ziehen und die deutsche Grammatik besser kennenzulernen.
5. 学修の到達目標：ドイツ語文法の理解を深め、ドイツ語をより正しく読み、書くことができるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Ziel des Unterrichts ist, die deutsche Grammatik besser zu verstehen und deutsche Sätze besser lesen und schreiben zu können.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 ガイダンス
 - 2 非人称の es (1)
 - 3 非人称の es (2)
 - 4 前置詞 (1)
 - 5 前置詞 (2)
 - 6 前置詞 (3)
 - 7 前置詞 (4)
 - 8 副詞 (1)
 - 9 副詞 (2)
 - 10 接続詞 (1)
 - 11 接続詞 (2)
 - 12 形容詞 (1)
 - 13 形容詞 (2)
 - 14 命令表現 (1)
 - 15 命令表現 (2)
8. 成績評価方法：

レポート [50%]・平常点(出席、授業での発言、質疑) [50%]
9. 教科書および参考書：

プリントを配布する。必ず辞書を持参すること。

参考書：関口存男『新ドイツ語文法教程』(三省堂)
10. 授業時間外学習：復習が重要である。講義の内容理解を確かめる課題のレポートを提出してもらう。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
授業の形態(対面かオンラインか)は Classroom で指示する予定。

科目名：ドイツ語学概論Ⅱ／ German Linguistics (General Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

Semester：4 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓

コード：LB43201, 科目ナンバリング：LHM-LIT207J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中級ドイツ文法
2. Course Title (授業題目)：Intermediate German Grammar
3. 授業の目的と概要：初級のドイツ文法では習わない事項を取り上げ、ドイツ語の文法をより深く理解することを目指す。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Der Unterricht orientiert sich daran, verschiedene Themen, die in der grundlegenden Grammatik normalerweise nicht berücksichtigt werden, in Betracht zu ziehen und die deutsche Grammatik besser kennenzulernen.
5. 学修の到達目標：ドイツ語文法の理解を深め、ドイツ語をより正しく読み、書くことができるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Ziel des Unterrichts ist, die deutsche Grammatik besser zu verstehen und deutsche Sätze besser lesen und schreiben zu können.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 ガイダンス
 - 2 分離動詞・非分離動詞 (1)
 - 3 分離動詞・非分離動詞 (2)
 - 4 受動態 (1)
 - 5 受動態 (2)
 - 6 再帰動詞 (1)
 - 7 再帰動詞 (2)
 - 8 機能動詞 (1)
 - 9 機能動詞 (2)
 - 10 分詞 (1)
 - 11 分詞 (2)
 - 12 分詞 (3)
 - 13 分詞 (4)
 - 14 格の用法 (1)
 - 15 格の用法 (2)
8. 成績評価方法：

レポート [50%]・平常点(出席、授業での発言、質疑) [50%]
9. 教科書および参考書：

プリントを配布する。必ず辞書を持参すること。
参考書：関口存男『新ドイツ語文法教程』(三省堂)
10. 授業時間外学習：復習が重要である。講義の内容理解を確かめる課題のレポートを提出してもらう。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
授業の形態(対面かオンラインか)はClassroomで指示する予定。

科目名：ドイツ文学基礎講読 I / German Literature (Introductory Reading) I

曜日・講時：前期 火曜日 1 講時

semester：3 単位数：2

担当教員：NARROG HEIKO

コード：LB32104, 科目ナンバリング：LHM-LIT219J, 使用言語：2カ国語以上

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ語スキルアップ

2. Course Title (授業題目)：Improving German Language Skills

3. 授業の目的と概要：全学教育で身についたドイツ語能力を安定させ、発展させる。

ドイツ語圏文化と習慣に触れ、テーマに沿って語彙を増やせ文章の理解力や表現力を高める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Stabilize and expand on the German language proficiency acquired during the first year of general education.

Encounter culture and culture in German-speaking countries, add vocabulary, improve reading ability and ability of self-expression.

5. 学修の到達目標：A2 レベル程度のドイツ語力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Acquire German language skills at the A2 level of the Common European Framework of Reference for Languages.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業説明

受講者のドイツ語能力確認

2. Im Restaurant I

3. Im Restaurant II

4. Im Restaurant III

5. Im Hotel I

6. Im Hotel II

7. Im Hotel III

8. In der Stadt I

9. In der Stadt II

10. In der Stadt III

11. Reise und Verkehr I

12. Reise und Verkehr II

13. Reise und Verkehr III

14. Wetter I

15. Wetter II, 授業到達目標確認

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。クラスコードはシラバス入力の時時点では未定で、学期初めに決まります。そのとき Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

8. 成績評価方法：

毎回の参加、課題、宿題。最終回試験。

9. 教科書および参考書：

佐藤修子他著. Szenen 2. 三修社

10. 授業時間外学習：定期的な宿題を出す

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

本シラバスは、対面授業が行われることを前提に作成されている。

もし遠隔で行われることになった場合、それに合わせて授業内容と方法が変わる場合がある。

科目名：ドイツ文学基礎講読 I / German Literature (Introductory Reading) I

曜日・講時：後期 火曜日 1 講時

semester：4 単位数：2

担当教員：NARROG HEIKO

コード：LB42104, 科目ナンバリング：LHM-LIT219J, 使用言語：2カ国語以上

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ語スキルアップ

2. Course Title (授業題目)：Improving German Language Skills

3. 授業の目的と概要：全学教育で身についたドイツ語能力を安定させ、発展させる。

ドイツ語圏文化と習慣に触れ、テーマに沿って語彙を増やせ文章の理解力や表現力を高める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Stabilize and expand on the German language proficiency acquired during the first year of general education.

Encounter culture and culture in German-speaking countries, add vocabulary, improve reading ability and ability of self-expression.

5. 学修の到達目標：A2 レベル程度のドイツ語力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Acquire German language skills at the A2 level of the Common European Framework of Reference for Languages.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業説明

受講者のドイツ語能力確認

2. Wetter II

3. Wetter III

4. Gesundheit und Körperpflege I

5. Gesundheit und Körperpflege II

6. Gesundheit und Körperpflege III

7. Geschenke und Einladungen I

8. Geschenke und Einladungen II

9. Geschenke und Einladungen III

10. Lebenslauf und Schulsystem I

11. Lebenslauf und Schulsystem II

12. Lebenslauf und Schulsystem III

13. Müll und Umwelt I

14. Müll und Umwelt II

15. 授業到達目標確認

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードはシラバス入力の時時点では未定で、学期初めに決まります。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

8. 成績評価方法：

毎回の参加、課題、宿題。最終回試験。

9. 教科書および参考書：

佐藤修子他著. Szenen 2. 三修社

10. 授業時間外学習：定期的に宿題を出す

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

本シラバスは、対面授業が行われることを前提に作成されている。

もし遠隔で行われることになった場合、それに合わせて授業内容と方法が変わる場合がある。

科目名：ドイツ文学各論 I / German Literature (Special Lecture) I

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

semester：5 単位数：2

担当教員：佐藤 雪野

コード：LB52204, 科目ナンバリング：LHM-LIT306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ（語）文化圏の文化と歴史(11)

2. Course Title (授業題目)：Culture and History of German Cultural Sphere (11)

3. 授業の目的と概要：広い意味でのドイツ（語）文化圏の歴史と文化を、様々な側面から理解する。

その際、ドイツ以外のドイツ（語）文化圏に着目する。

「ドイツ文化圏」としてのプラハに注目し、なぜそこに「ドイツ文化圏」が生じたのかを含め、プラハの多文化性を考察する。

講義のほか、ドイツ語で書かれたテキストを読む機会を設け、ドイツ語の読解力も高める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course provides students knowledge of history and culture of German speaking area, especially outside of today's Germany.

For this purpose we will discuss on multi-cultural Prague, also as a German cultural sphere.

Besides lectures we will read a German text in order to improve the students' ability of German language.

5. 学修の到達目標：1. ドイツ（語）文化圏の歴史と文化を理解する。

2. ドイツ語の読解力を向上させる。

3. わかりやすいプレゼンテーション能力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：1. Students will understand history and culture of German speaking area.

2. Students will develop skills to read German academic text.

3. Students will be able to present their research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

対面授業を原則とする。

内容及び進度は以下の通りを予定しているが、状況によって内容を変更する場合がある。

1. オリエンテーション
2. プラハの歴史
3. ボヘミアとドイツ人
4. プラハとユダヤ人
5. プラハのドイツ文学
6. Lenka Reinerová: Mandelduft 1
7. Mandelduft 2
8. Mandelduft 3
9. Mandelduft 4
10. Mandelduft 5
11. Mandelduft 6
12. Mandelduft 7
13. Mandelduft 8
14. Mandelduft 9
15. まとめ

8. 成績評価方法：

平常点（出席、アサインメント、発言状況）：70%

期末課題：30%

9. 教科書および参考書：

テキストはプリント配布

その他の参考書は授業中に指示する。

Text will be provided at the class. Reference books will be introduced at the class.

10. 授業時間外学習：予習は、テキストを読み、関連事項を調べておくこと。

復習時にも、調査が必要。

Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

進度については一例であり、受講者の状況により、臨機応変に対応する。

テキストの入手方法や、その他の補足説明（オフィス・アワー、講師への連絡方法など）は開講時に行う。

The further information for the lecturer will be given in class.

科目名：ドイツ文学各論Ⅱ／ German Literature (Special Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

semester：6 単位数：2

担当教員：佐藤 雪野

コード：LB62204, 科目ナンバリング：LHM-LIT307J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ（語）文化圏の文化と歴史(12)

2. Course Title (授業題目)：Culture and History of German Cultural Sphere (12)

3. 授業の目的と概要：広い意味でのドイツ（語）文化圏の歴史と文化を、様々な側面から理解する。

その際、ドイツ以外のドイツ（語）文化圏に着目する。

「ドイツ文化圏」としてのプラハに注目し、なぜそこに「ドイツ文化圏」が生じたのかを含め、プラハの多文化性を考察する。

講義のほかに、ドイツ語で書かれたテキストを読む機会を設け、ドイツ語の読解力も高める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course provides students knowledge of history and culture of German speaking area, especially outside of today's Germany.

For this purpose we will discuss on multi-cultural Prague, also as a German cultural sphere.

Besides lectures we will read a German text in order to improve the students' ability of German language.

5. 学修の到達目標：1. ドイツ（語）文化圏の歴史と文化を理解する。

2. ドイツ語の読解力を向上させる。

3. わかりやすいプレゼンテーション能力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：1. Students will understand history and culture of German speaking area.

2. Students will develop skills to read German academic text.

3. Students will be able to present their research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

対面授業を原則とする。

内容及び進度は以下の通りを予定しているが、状況によって内容を変更する場合がある。

1. オリエンテーション
2. レンカ・ライネロヴァーとプラハ
3. ホロコーストとプラハ
4. Lenka Reinerová: Mandelduft 1
5. Mandelduft 2
6. Mandelduft 3
7. Mandelduft 4
8. Mandelduft 5
9. Mandelduft 6
10. Mandelduft 7
11. Mandelduft 8
12. Mandelduft 9
13. Mandelduft 10
14. Mandelduft 11
15. まとめ

8. 成績評価方法：

平常点（出席、アサインメント、発言状況）：70%

期末課題：30%

9. 教科書および参考書：

テキストはプリント配布。

その他の参考書は授業中に指示する。

Text will be provided at the classroom. Reference books will be introduced at the class.

10. 授業時間外学習：予習は、テキストを読み、関連事項を調べておくこと。

復習時にも、調査が必要。

Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

進度については一例であり、受講者の状況により、臨機応変に対応する。

テキストの入手方法や、その他の補足説明（オフィス・アワー、講師への連絡方法など）は開講時に行う。

The further information for the lecturer will be given in class.

科目名：ドイツ文学各論Ⅲ／ German Literature (Special Lecture)Ⅲ

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

Semester：5 単位数：2

担当教員：藤田 恭子

コード：LB55203, 科目ナンバリング：LHM-LIT308J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ詩を読む
2. Course Title (授業題目)：Deutsche Gedichte lesen
3. 授業の目的と概要：詩のテキストを厳密に読み、凝縮された言語表現からイメージを膨らませる。その際、詩のテキスト解釈を補強するべく、詩人の他のテキストや二次文献を読む。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In diesem Seminar wird durch die genaue Lektüre von Gedichten die Entwicklung von Bildern aus verdichteten sprachlichen Ausdrücken geübt. Dabei werden auch andere Texte der Dichterin sowie Sekundärliteratur eingesetzt, um ihre Gedichte überzeugender interpretieren zu können.
5. 学修の到達目標：ドイツ語による詩を、その言語的時代的文脈を理解しつつ、解釈する方法を知る。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Kennenlernen der Methodologie, Gedichte in deutscher Sprache unter Einbeziehung des sprachlichen und zeitlichen Kontexts zu interpretieren.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業は対面あるいはオンラインのリアルタイム授業として行う。
事例として、オーストリア帝国領からルーマニア領となったブコヴィナ出身のユダヤ系詩人ローゼ・アウスレンダー (Rose Ausländer, 1901-1988) のテキストを取り上げ、彼女の自伝的エッセイや二次文献の一部を読んだうえで、再度、詩のテキストを読み直す。ホロコーストやディアスポラといった現代ドイツ文学の背景にある諸問題にも触れる。

第1回 導入
第2回 ローゼ・アウスレンダーの詩 (1)
第3回 ローゼ・アウスレンダーの詩 (2)
第4回 ローゼ・アウスレンダーの自伝的エッセイ (1)
第5回 ローゼ・アウスレンダーの自伝的エッセイ (2)
第6回 ローゼ・アウスレンダーの自伝的エッセイ (3)
第7回 ローゼ・アウスレンダーの自伝的エッセイ (4)
第8回 二次文献 (1)
第9回 二次文献 (2)
第10回 二次文献 (3)
第11回 二次文献 (4)
第12回 二次文献 (5)
第13回 ローゼ・アウスレンダーの詩 (3)
第14回 ローゼ・アウスレンダーの詩 (4)
第15回 まとめ
8. 成績評価方法：
平常点 (出席、授業での発言、課題の発表、議論への参加)
9. 教科書および参考書：
プリントを配付する。Texte werden im Voraus verteilt.
10. 授業時間外学習：事前に配付したドイツ語テキストを予習し、読解すること。
Lesen und verstehen der im Voraus verteilten Texte wird vorausgesetzt.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
このクラスでは Google Classroom を用いて、授業連絡などを行う。教員の連絡先は以下の通り。kyoko.fujita.e5 アトマーク、トーホク、エーシー、ジェーピー
Kommunikation außerhalb des Unterrichts (Verteilung von Texten, Einreichung von Hausaufgaben, etc.) findet über Google Classroom statt. Die Kontaktadresse der Lehrkr

科目名：ドイツ文学各論Ⅳ／ German Literature (Special Lecture)Ⅳ

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：藤田 恭子

コード：LB65204, 科目ナンバリング：LHM-LIT309J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目： ドイツの散文作品を読む
2. Course Title (授業題目) : Deutsche Prosa lesen
3. 授業の目的と概要： 散文テクストを読み、また著者の自伝的テクストや二次文献を読んで、多様な解釈の可能性を知る。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In dieser Klasse wird geübt, Prosatexte genau zu. Dabei werden auch autobiografische Texte der Schriftstellerin sowie Sekundärliteratur über sie eingesetzt, um die Texte überzeugender interpretieren zu können.
5. 学修の到達目標：ドイツ語による散文を、その言語的時代的文脈を理解しつつ、解釈する方法を知る。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : Kennenlernen der Methodologie, Prosatexte in deutscher Sprache unter Einbeziehung des sprachlichen und zeitlichen Kontexts zu interpretieren.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業は対面あるいはオンラインのリアルタイム授業として行う。
事例として、2009 年度ノーベル文学賞を受賞したヘルタ・ミュラー (Herta Müller, 1953-) のテクストを取り上げる。彼女の自伝的エッセイや二次文献の一部も読む。

第 1 回 導入

第 2 回 ヘルタ・ミュラーの初期テクスト “Niederungen “ (1)

第 3 回 ヘルタ・ミュラーの初期テクスト “Niederungen “ (2)

第 4 回 ヘルタ・ミュラーの初期テクスト “Niederungen “ (3)

第 5 回 ヘルタ・ミュラーの初期テクスト “Niederungen “ (4)

第 6 回 ヘルタ・ミュラーの初期テクスト “Niederungen “ (5)

第 7 回 ヘルタ・ミュラーの初期テクスト “Niederungen “ (6)

第 8 回 ヘルタ・ミュラーの初期テクスト “Niederungen “ (7)

第 9 回 ヘルタ・ミュラーの自伝的エッセイ (1)

第 10 回 ヘルタ・ミュラーの自伝的エッセイ (2)

第 11 回 ヘルタ・ミュラーの自伝的エッセイ (3)

第 12 回 二次文献 (1)

第 13 回 二次文献 (2)

第 14 回 二次文献 (3)

第 15 回 まとめ

8. 成績評価方法：

平常点 (出席、授業での発言、課題の発表、議論への参加)

9. 教科書および参考書：

プリントを配付する。

Texte werden im Voraus verteilt.

10. 授業時間外学習： 事前に配付したドイツ語テクストを予習し、読解すること。

Lesen und verstehen der im Voraus verteilten Texte wird vorausgesetzt.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

このクラスでは Google Classroom を用いて、授業連絡などを行う。

教員の連絡先は以下の通り。kyoko.fujita.e5 アトマーク、トーホク、エーシー、ジェーピー

Kommunikation außerhalb des Unterrichts (Verteilung von Texten, Einreichung von Hausaufgaben, etc.) findet über Google Classroom statt. Die Kontaktadresse der Lehr

科目名：ドイツ語学各論／ German Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

semester：5 単位数：2

担当教員：NARROG HEIKO

コード：LB53311, 科目ナンバリング：LHM-LIT311J, 使用言語：2カ国語以上

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ語圏映画の世界
2. Course Title (授業題目) : German language films
3. 授業の目的と概要：ドイツ語圏で制作された映画を通して、ドイツ語圏の歴史と社会、文化についての理解を深める。さらに、聞き取り能力を高める。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Learn about culture, history and society of German language countries through film. Furthermore improve German language listening skills.
5. 学修の到達目標：ドイツ語圏の歴史、社会、文化について新たな知識と理解を得、B1~B2 レベルのドイツ語スキルを高める。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : Gain new knowledge and understanding of the culture, society and history of German language countries. Furthermore, improve language proficiency at B1~B2 level of the Common European Framework of Reference for Languages.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
履修者・参加者の関心にも合わせて以下のテーマから1つ2つを選び、映画を鑑賞し、その歴史的・文化的背景や映画史について学び調べる。映画の鑑賞と合わせて聞き取りを行う。
 - ・ 東ドイツの忘れられた巨匠たち — Frank Beyer, Rainer Simon, Konrad Wolf
 - ・ 世紀末にウィーンで発達し、現代ミュージカルの源流となった庶民的小オペラ、「オペレッタ」の軌跡
 - ・ 「ドイツのMike Leigh」こと Andreas Dresen 監督の映画 — 現代社会への問いかけ
 - ・ 世界的女流映画監督 Caroline Link の作品
 - ・ 東ドイツの終焉 — アカデミー賞を受賞した『善人のためのソナタ』等
 - ・ 現代ドイツの生活を主題とした映画たち
 - ・ ドイツ語圏 LGBT 映画史 — 世界初と言われるレズビアン映画から出発して
 - ・ Fatih Akin 等の映画に見られる現代ドイツ社会における移民問題
 - ・ ドイツコメディの名匠たち (Karl Valentin, Heinz Erhardt 等)
 - ・ ニュー・ジャーマン・シネマの巨匠たち — Wim Wenders, Werner Herzog, Rainer-Werner Fassbinder
 - ・ 映画の中の西ドイツ戦後史
8. 成績評価方法：
授業参加、毎回の課題、宿題に基づいて評価する
9. 教科書および参考書：
特になし
10. 授業時間外学習：定期的に宿題を出す
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし
本シラバスは、対面授業が行われることを前提に作成されている。
もし遠隔で行われることになった場合、それに合わせて授業内容と方法が変わる場合がある。

科目名：ドイツ語学各論／ German Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：NARROG HEIKO

コード：LB63301, 科目ナンバリング：LHM-LIT311J, 使用言語：2カ国語以上

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ語圏映画と日本
2. Course Title (授業題目) : German language films and Japan
3. 授業の目的と概要：日本を舞台としたドイツ語圏で制作された映画を通して、ドイツ語圏における日本の表象とその変容について学ぶ
また、もし参加者の全員あるいは多くがドイツ語を学んでいれば、さらにドイツ語の聞き取りを行い、ドイツ語能力の強化も図る
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Learn about the German image of Japan as seen through German-made movies that play in Japan or have significant elements of Japan.
* If all or most participants have learned German, we will also work on listening skills
5. 学修の到達目標：日本を舞台としたドイツ語圏で制作された映画を通して、ドイツ語圏における日本の表象とその変容について理解する。
また、もし参加者の多くがドイツ語を学んでいれば、B1~B2 レベルのドイツ語能力を強化するも目標とする。
6. Learning Goals(学修の到達目標) : Gain new knowledge and understanding of the representational image of Japan of German language countries. Furthermore, if most or all participants have learned German, improving language proficiency at B1~B2 level of the Common European Framework of Refer
7. 授業の内容・方法と進度予定：
ドイツ語圏で制作された、日本をテーマとした映画を鑑賞し、ドイツ語圏における日本の表象とその変化について学ぶ。具体的には、次のような映画が対象となる
 - ・ A. ファンク監督の『新しき土』 (1937年)、ファンク監督の映画製作、生涯
 - ・ D. デリー監督の日本で撮影された3部作、Erleuchtung garantiert (1999), Kirschblüten - Hanami (2008), Grüße aus Fukushima (2016)
 - ・ C. フィベラーの Sushi in Suhl (2012)もし履修者・参加者の全員あるいは多くが前期と一致して継続してこの科目を履修した場合、前期の授業と引き続き、以下のテーマから選ぶこともある。
 - ・ 東ドイツの忘れられた巨匠たち — Frank Beyer, Rainer Simon, Konrad Wolf
 - ・ 世紀末にウィーンで発達し、現代ミュージカルの源流となった庶民的小オペラ、「オペレッタ」の軌跡
 - ・ 「ドイツの Mike Leigh」こと Andreas Dresen 監督の映画 — 現代社会への問いかけ
 - ・ 世界的な女流映画監督 Caroline Link の作品
 - ・ ドイツ語圏 LGBT 映画史 — 世界初と言われるレズビアン映画から出発して
 - ・ 東ドイツの終焉 — アカデミー賞を受賞した『善人のためのソナタ』等
 - ・ ニュー・ジャーマン・シネマの巨匠たち — Wim Wenders, Werner Herzog, Rainer-Werner Fassbinder
 - ・ 現代ドイツの生活を主題とした映画たち
 - ・ ドイツコメディの名匠たち (Karl Valentin, Heinz Erhardt 等)
 - ・ Fatih Akin 等の映画に見られる現代ドイツ社会における移民問題
 - ・ 映画の中の西ドイツ戦後史
8. 成績評価方法：
授業参加、毎回の課題、宿題に基づいて評価する
9. 教科書および参考書：
特になし
10. 授業時間外学習：定期的な宿題を出す
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
本シラバスは、対面授業が行われることを前提に作成されている。
もし遠隔で行われることになった場合、それに合わせて授業内容と方法が変わる場合がある。

科目名：ドイツ文学演習 I / German Literature (Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓

コード：LB55303, 科目ナンバリング：LHM-LIT323J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中世ドイツ文学
2. Course Title (授業題目) : Medieval German literature
3. 授業の目的と概要：現代文学の源流としての中世ドイツ文学の歴史を知るとともにその特殊性を理解する。
現代文学において恋愛がテーマになるのは珍しいことではないが、ドイツ文学史において恋愛が主題になったのは 12 世紀であった。それ以前のドイツ文学の主題はキリスト教であった。ただし、12 世紀に恋愛が主題とされた場合に雛形となったのはキリスト教の神への信仰であったので、その恋愛は崇高な愛の形をとった。しかしそのような高貴な愛も騎士文化の衰退と市民社会の興隆とともに通俗化する。授業では、恋愛のほかに北欧伝説との関係も見ながら、中世ドイツ
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In diesem Seminar handelt es sich um die Geschichte der deutschen mittelalterlichen Literatur als Quelle der modernen Literatur und um ihre Eigenschaften.
In der modernen Literatur ist nicht selten die Liebe das Thema, aber die Liebe wurde erst im 12. Jahrhundert thematisiert, das Thema davor war am meisten das Christentum. Die literarische Liebe basierte sich aber auch auf dem Glauben an den Gott, die Liebe zwischen Menschen war also erhaben. Solche hohe Liebe wurde aber allmählich säkularisiert, indem die ritterliche Kultur verfiel und die bürgerliche Gesellschaft sich erhebe. In dem Seminar soll also auch berücksichtigt werden, dass die Teilnehmer sich mit der Kultur und Gesellschaft im Mittelalter vertraut machen und gelegentlich auch bessere Kenntnisse über den Zusammenhang mit der nordischen Legenden erwerben können.
5. 学修の到達目標：中世ドイツ文学の歴史を知り、その特殊性を理解する。中高ドイツ語の文学作品を読んでその内容が理解できる。
6. Learning Goals(学修の到達目標) : Ziel des Unterrichts ist, dass man die Geschichte der deutschen mittelalterlichen Literatur und deren Eigenschaften kennen lernt und Texte im Mittelhochdeutsch lesen und den Inhalt verstehen kann.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 ガイダンス
 - 2 中高ドイツ語入門 1 (発音)
 - 3 中高ドイツ語入門 2 (名詞・代名詞・形容詞)
 - 4 中高ドイツ語入門 3 (動詞)
 - 5 中高ドイツ語文学講読 1 (1586-1587)
 - 6 中高ドイツ語文学講読 2 (1588-1589)
 - 7 中高ドイツ語文学講読 3 (1590-1591)
 - 8 中高ドイツ語文学講読 4 (1592-1594)
 - 9 中高ドイツ語文学講読 5 (1595-1597)
 - 10 中高ドイツ語文学講読 6 (1598-1600)
 - 11 中高ドイツ語文学講読 7 (1601-1604)
 - 12 中高ドイツ語文学講読 8 (1605-1608)
 - 13 中高ドイツ語文学講読 9 (1609-1612)
 - 14 中高ドイツ語文学講読 10 (1613-1616)
 - 15 中高ドイツ語文学講読 11 (1617-1620)
8. 成績評価方法：
平常点(出席、授業での発言、質疑) [100%]
9. 教科書および参考書：
プリントを配布する。参考書：『中高ドイツ語小辞典』同学社；古賀充洋『中高ドイツ語』大学書林；岡崎忠弘訳『ニーベルンゲンの歌』
10. 授業時間外学習：前もって文法的説明を加えた注を配布するので、それに基づき、辞書を使って予習をすること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
授業の形態(対面かオンラインか)は Classroom で指示する予定。

科目名：ドイツ文学演習Ⅱ／ German Literature (Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓

コード：LB65304, 科目ナンバリング：LHM-LIT324J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中世ドイツ文学
2. Course Title (授業題目)：Medieval German literature
3. 授業の目的と概要：現代文学の源流としての中世ドイツ文学の歴史を知るとともにその特殊性を理解する。
現代文学において恋愛がテーマになるのは珍しいことではないが、ドイツ文学史において恋愛が主題になったのは12世紀であった。それ以前のドイツ文学の主題はキリスト教であった。ただし、12世紀に恋愛が主題とされた場合に雛形となったのはキリスト教の神への信仰であったので、その恋愛は崇高な愛の形をとった。しかしそのような高貴な愛も騎士文化の衰退と市民社会の興隆とともに通俗化する。授業では、恋愛のほかに北欧伝説との関係も見ながら、中世ドイツ
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In diesem Seminar handelt es sich um die Geschichte der deutschen mittelalterlichen Literatur als Quelle der modernen Literatur und um ihre Eigenschaften.
In der modernen Literatur ist nicht selten die Liebe das Thema, aber die Liebe wurde erst im 12. Jahrhundert thematisiert, das Thema davor war am meisten das Christentum. Die literarische Liebe basierte sich aber auch auf dem Glauben an den Gott, die Liebe zwischen Menschen war also erhaben. Solche hohe Liebe wurde aber allmählich säkularisiert, indem die ritterliche Kultur verfiel und die bürgerliche Gesellschaft sich erhebe. In dem Seminar soll also auch berücksichtigt werden, dass die Teilnehmer sich mit der Kultur und Gesellschaft im Mittelalter vertraut machen und gelegentlich auch bessere Kenntnisse über den Zusammenhang mit der nordischen Legenden erwerben können.
5. 学修の到達目標：中世ドイツ文学の歴史を知り、その特殊性を理解する。中高ドイツ語の文学作品を読んでその内容が理解できる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Ziel des Unterrichts ist, dass man die Geschichte der deutschen mittelalterlichen Literatur und deren Eigenschaften kennen lernt und Texte im Mittelhochdeutsch lesen und den Inhalt verstehen kann.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 ガイダンス
 - 2 中高ドイツ語入門1 (発音)
 - 3 中高ドイツ語入門2 (名詞・代名詞・形容詞)
 - 4 中高ドイツ語入門3 (動詞)
 - 5 中高ドイツ語文学講読1 (1621-1622)
 - 6 中高ドイツ語文学講読2 (1623-1624)
 - 7 中高ドイツ語文学講読3 (1625-1626)
 - 8 中高ドイツ語文学講読4 (1627-1629)
 - 9 中高ドイツ語文学講読5 (1630-1632)
 - 10 中高ドイツ語文学講読6 (1633-1635)
 - 11 中高ドイツ語文学講読7 (1636-1639)
 - 12 中高ドイツ語文学講読8 (1640-1643)
 - 13 中高ドイツ語文学講読9 (1644-1647)
 - 14 中高ドイツ語文学講読10 (1648-1651)
 - 15 中高ドイツ語文学講読11 (1652-1655)
8. 成績評価方法：

平常点(出席、授業での発言、質疑) [100%]
9. 教科書および参考書：

プリントを配布する。参考書：『中高ドイツ語小辞典』同学社；古賀充洋『中高ドイツ語』大学書林；岡崎忠弘訳『ニーベルンゲンの歌』
10. 授業時間外学習：前もって文法的説明を加えた注を配布するので、それに基づき、辞書を使って予習をすること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
授業の形態(対面かオンラインか)はClassroomで指示する予定。

科目名：ドイツ文学演習Ⅲ／ German Literature (Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：菊池 克己

コード：LB52404, 科目ナンバリング：LHM-LIT325J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：多読によるドイツ語読書へのアプローチ
2. Course Title (授業題目)：Approach to German reading based on extensive reading
3. 授業の目的と概要：この授業ではドイツ語習得のアプローチとして「多読」を取り上げる。自分のレベルより下のやさしい本から始め、本の中身そのもの楽しむ「多読」を行う。従来の訳読方式の読み方では、「本を読む」というよりも、文法の分析や訳文の捻出が自己目的化してしまっている場合が多い。また、訳読方式は時間がかかるのでインプット量も増えず、そもそもドイツ語に慣れ親しむという経験も持てない。そこで、本来の意味での「読書」を取り戻し、自分がわかるやさしい本をたくさん読む「多読」を通して、新しい外国語習得の可能性を探る。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides students with books to read by means of extensive reading. Students choose books for themselves and read at their own pace. The aim is to help students to gain proper reading experience which is likely to be spoiled in the text understanding through analyzing grammatically and translating into Japanese.
5. 学修の到達目標：・訳読ではない、ドイツ語で「読書」する楽しさを知る。
・ドイツ語での読書を習慣化する。
・読みの流暢さを獲得する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goals of this course are to
 - enjoy reading in German without translating into Japanese
 - acquire the habit of reading in German
 - improve reading fluency
7. 授業の内容・方法と進度予定：
自分の能力にあった本を自分で選び、自分のペースで読む。その感想などを簡単に記録する。また、自分が読んだ本を紹介し、情報交換する。
 - 1 オリエンテーション：多読とは何か？
 - 2 多読実践 1
 - 3 多読実践 2
 - 4 多読実践 3
 - 5 多読実践 4
 - 6 多読実践 5
 - 7 多読実践 6
 - 8 ここまでの感想、自分の多読を発展・深化させるために目標を立てる
 - 9 多読実践 7
 - 10 多読実践 8
 - 11 多読実践 9
 - 12 多読実践 10
 - 13 多読実践 11
 - 14 多読実践 12
 - 15 読書経験を振り返って
8. 成績評価方法：
平常点 [100%]
9. 教科書および参考書：
教室で指示
10. 授業時間外学習：隙間時間を利用するなど、自分で本を選んで多読に取り組む。訳読ではなくドイツ語での「読書」を習慣化する努力を。
 - 1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 - 1 2. その他：なし

科目名：ドイツ文学演習Ⅳ／ German Literature (Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期集中 その他 連講

semester：6 単位数：2

担当教員：風岡 祐貴

コード：LB98834, 科目ナンバリング：LHM-LIT326J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ハインリヒ・ハイネの詩

2. Course Title (授業題目)：Heinrich Heines Gedichte

3. 授業の目的と概要：この集中講義では、ハイネの詩を読み、ドイツ語の詩への理解を深めることを目的にする。また、講義は次のような形式で行う。

1.
受講者は、ハイネの生きた時代や社会、18～19 世紀の文学の潮流について図書館で調べ、発表する。具体的には、2～3 人で 1 組となり、教員より割り当てられたトピック（例 19 世紀初頭のドイツ社会）について、ドイツ語や日本語の資料を参考にまとめる。

2.
ハイネの詩集『歌の本』、『新詩集』、『ロマンツェーロ』の中から数編の詩を選び読む。講読は次のステップで進める。
・2～3

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Ziel des Seminars ist, anhand von Heines Gedichten deutschsprachige Lyrik kennenzulernen.

Gruppenarbeiten sind ein wesentlicher Bestandteil des Seminars. Eine Gruppe besteht aus 2 bis 3 Personen. Das Seminar besteht aus zwei Teilen, und zwar

1) Recherche und Referat: Jeder Gruppe wird jeweils ein Thema, etwa "die Gesellschaft Deutschlands im 19. Jahrhundert", zugeteilt. Eine Einheit im Seminar widmet sich der Recherche in der Universitätsbibliothek. Darauf folgt in der nächsten Einheit das Referat.

2) Übersetzung und Gedichtanalyse

Gegenstand der Untersuchung sind voraussichtlich 10 Gedichte aus "Buch der Lieder", "Neue Gedichte" sowie "Romanzero". Die Teilnehmerinnen und Teilnehmer arbeiten wieder jeweils in der Gruppe zusammen und übersetzen die Gedichte ins Japanische. Dabei benützen sie historische Wörterbücher wie Grimm, um sich dem Sprachgefühl des 19. Jahrhunderts anzunähern. Die Übersetzungen der Gruppen werden verglichen und diskutiert. Des Weiteren wird auf fünf Aspekte, nämlich Rhythmus, Reim, rhetorische Figuren, Textvariante und wichtige Stoffe und Motive eingegangen. Auch die Vertonung und die Rezeptiongeschichte in Japan werden betrachtet.

5. 学修の到達目標：以下の 3 点を到達目標とする。

1. ハイネの詩の特徴を理解する。
2. ドイツ語の詩の韻律について理解する。
3. 文学作品で用いられる修辞技法について理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. Charakteristika von Heines Gedichten zu verstehen

2. Rhythmus und Reim von deutschsprachigen Gedichten zu begreifen
3. Rhetorische Figuren als literarische Mittel zu lernen

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入
2. 詩を読む前に 1
3. 詩を読む前に 2
4. 『歌の本』 1
5. 『歌の本』 2
6. 『歌の本』 3
7. 『歌の本』 4
8. 『新詩集』 1
9. 『新詩集』 2
10. 『新詩集』 3
11. 『新詩集』 4
12. 『ロマンツェーロ』 1
13. 『ロマンツェーロ』 2
14. 『ロマンツェーロ』 3
15. 試験

8. 成績評価方法：

発表ならびに議論への参加 55%，試験 45%

9. 教科書および参考書：

毎回、資料を配布する。

1 0. **授業時間外学習**：ハイネがどのような人物で、どのような詩を書いていたのかを予め調べておいて下さい。予備知識があれば、講義内容がわかりやすくなります。

1 1. **実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、**実務・実践的授業**であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. **その他**：なし

科目名：ドイツ語学演習Ⅲ／ German Linguistics (Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 木曜日 3 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：NARROG HEIKO

コード：LB54301, 科目ナンバリング：LHM-LIT329J, 使用言語：2カ国語以上

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ語学演習

2. Course Title (授業題目)：German Language Seminar

3. 授業の目的と概要：2年間養ったドイツ語能力をヨーロッパ基準の中級教材を用いて更に安定させて高める。
読む・書く・聞く・話すの基礎的能力を体系的に向上させる。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Stabilize and improve on the German language proficiency acquired during the first two years of university education.

Systematically develop skills in reading, writing, listening and speaking.

5. 学修の到達目標：B1～B2 レベルのドイツ語を身につける

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Achieve German language proficiency at B1～B2 level of the Common European Framework of Reference for Languages.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

下記は授業内容の一例です。

1. Reisetyp I
2. Reisetyp II
3. Einmal um die ganze Welt I
4. Einmal um die ganze Welt II
5. Einmal um die ganze Welt III
6. Urlaub mal anders I
7. Urlaub mal anders II
8. Arger an den schönsten Tagen I
9. Arger an den schönsten Tagen II
10. Arger an den schönsten Tagen III
11. Eine Reise nach Hamburg I
12. Eine Reise nach Hamburg II
13. Eine Reise nach Hamburg III
14. Alexander von Humboldt I
15. Alexander von Humboldt II

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。クラスコードはシラバス入力時点では未定で学期初めに決まります。そのとき Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

8. 成績評価方法：

授業参加、毎回の課題、宿題に基づいて評価する

9. 教科書および参考書：

Aspekte neu B1, Teil 2

10. 授業時間外学習：定期的な宿題を出す

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

本シラバスは、対面授業が行われることを前提に作成されている。

もし遠隔で行われることになった場合、それに合わせて授業内容と方法が変わる場合がある。

科目名：ドイツ語学演習Ⅳ／ German Linguistics (Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 木曜日 3 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：NARROG HEIKO

コード：LB64302, 科目ナンバリング：LHM-LIT330J, 使用言語：2カ国語以上

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ語学演習

2. Course Title (授業題目)：German Language Seminar

3. 授業の目的と概要：2年間養ったドイツ語能力をヨーロッパ基準の中級教材を用いて更に安定させて高める。
読む・書く・聞く・話すの基礎的能力を体系的に向上させる。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Stabilize and improve on the German language proficiency acquired during the first two years of university education.

Systematically develop skills in reading, writing, listening and speaking.

5. 学修の到達目標：B1～B2 レベルのドイツ語を身につける

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Achieve German language proficiency at B1～B2 level of the Common European Framework of Reference for Languages.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

下記は、授業内容の一例です

1. Natürlich Natur I
2. Natürlich Natur II
3. Umweltproblem Single I
4. Umweltproblem Single II
5. Umweltproblem Single III
6. Tierisch tierlieb I
7. Tierisch tierlieb II
8. Alles für die Umwelt I
9. Alles für die Umwelt II
10. Alles für die Umwelt III
11. Kostbares Nass I
12. Kostbares Nass II
13. Kostbares Nass III
14. Elisabeth Mann Borgese I
15. Elisabeth Mann Borgese II

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。クラスコードはシラバス入力時点では未定で学期初めに決まります。そのときClassroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

8. 成績評価方法：

授業参加、毎回の課題、宿題に基づいて評価する

9. 教科書および参考書：

Aspekte neu B1, Teil 2

10. 授業時間外学習：定期的な宿題を出す

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

本シラバスは、対面授業が行われることを前提に作成されている。

もし遠隔で行われることになった場合、それに合わせて授業内容と方法が変わる場合がある。